

## オープン市場短信 (2017年6月)

2017.6.13

### ◆ 5月のCP市場動向

5月末のCP（短期社債）残高は約15兆4,240億円と、前年同月比で+1兆2,175億円増加し、3か月連続して前年を上回った。前月比では、+5,986億円の増加となった。残高拡大の牽引役であるその他金融は、前年比で1兆円強増加し7兆8,311億円（前月比+2,495億円）と、約10年ぶりに過去ピーク残高（2007年7月末：7兆6,229億円）を更新した。

一般事業法人は、月末近辺に法人税払いや賞与等の発行需要が高まり+5,442億円、金融機関は+1,080億円とそれぞれ増加した。ABC Pは発行需要が弱まり、▲2,882億円減少した。

発行レートの動きは、ディーラーや投資家の購入ニーズが強く、マイナス金利での出会いも散見されたが、ほぼ0%近辺での出会いが中心となった。

### 【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄（a-1+格）マイナス～0%近辺。一般事業法人（a-1格）マイナス～0%近辺。その他金融銘柄（a-1格）マイナス～0.0005%。

### 【業態別残高内訳】

(単位：億円)

業 態	5月末残高	4月末残高	増 減
一般事業法人	44,158	38,716	5,442
その他金融	78,311	75,966	2,345
金融機関	18,978	17,897	1,081
政府系金融	0	0	0
銀行等	11,790	11,060	730
証券	7,188	6,837	151
ABC P	12,793	15,675	-2,882
計	154,240	148,254	5,986

(注：買入消却分含む)

## 【格付け別の発行レート】

### 5月のCPレートレンジ

(単位 %)

格付	1か月	2か月	3か月
a-1+ (一般事法)	▲ ~ —	▲ ~ 0.0000%	— ~ —
a-1 (一般事法)	▲ ~ 0.0500%	▲ ~ 0.0000%	▲ ~ 0.0000%
a-1+ (リース銘柄)	— ~ —	▲ ~ 0.0000%	▲ ~ 0.0000%
a-1 (リース銘柄)	— ~ —	▲ ~ 0.0499%	▲ ~ 0.0008%
a-2	0.0000% ~ ケ0.10%	0.0000% ~ ケ0.10%	0.0000% ~ ケ0.10%

#### «CPオペ»

CP等買入オペは、9日・17日・26日に各々2,500億円にて実施された。オフア額が、前月比で減額されたこともあって、9日のオペは前回オペ（4月25日実施：3,500億円、按分レート▲0.019%、平均落札レート▲0.012%）に比べ、按分レート・平均落札レートともに上昇した。17日・26日のオペでは、ディーラーが売り急ぐ動きも見られず、按分レートは▲0.010%と低下する動きとなった。

【月末オペ残高：2兆4,284億円】

### 日銀 CP等買入れオペ実績

(単位：億円)

実施日	実行日	オフア金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
5月9日	5月12日	2,500	9,110	2,495	-0.005%	-0.002%	98.9%
5月17日	5月22日	2,500	9,398	2,495	-0.010%	0.005%	10.3%
5月26日	5月31日	2,500	8,000	2,500	-0.010%	-0.008%	19.4%

#### «ABC P»

ABC Pは発行需要が弱まり、1兆2,793億円と前月比▲2,882億円減少し、前年同月比でもマイナスであった。

#### «短期社債登録状況»

証券保管振替機構によると、月末時点における発行登録企業数は520社と変わらず。

«CP現先市場»

現先(S/N)レートは運用ニーズ強く、マイナス~0%近辺での出会いとなった。

#### ◆ 6月のCP市場動向

6月のCP償還額は3兆3,800億円と、前年同月の償還額(約3兆3,400億円)を若干上回っている(除く、相対発行分・金融機関発行CP・ABC P)。

今月の発行動向は、一般事業法人で四半期決算末を意識した残高調整が見られるものの、高い発行残を維持しているその他金融と直近3か月連続して増加している金融機関やABC Pの残高増加が影響し、月末の発行残高は14兆円台後半と4か月連続して前年同月比プラスを予想する。また、月中発行残は月内償還物の発行が多いことから、15兆円台前半での推移となろう。

発行レートは、引き続き運用者のニーズが強く、マイナス~0%近辺での横這い推移だろう。

«CPオペ»

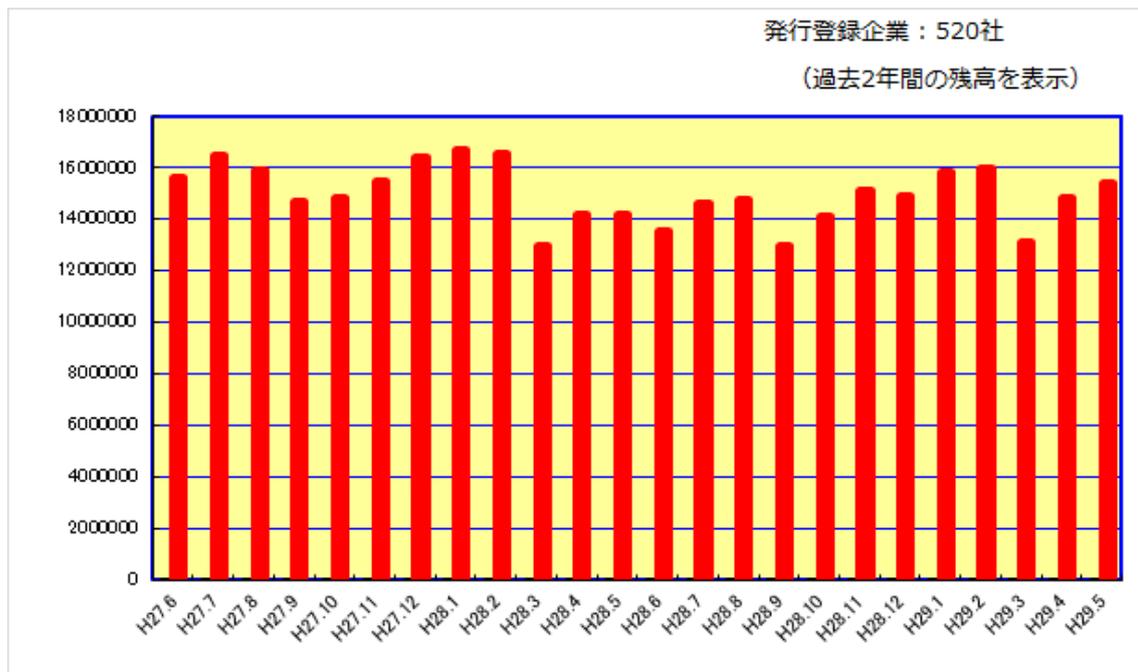
今月のCP等買入オペは5月31日に公表され、6日・14日・27日の日程となっている。4月末の公表分から、14日・27日分がそれぞれ500億円の減額となり、各回3,500億円程度のオファーとなった。6日のオペでは応札額が膨らみ、按分落札レート▲0.007%・平均落札レート0.000%と、前回(5月26日実施分：按分落札レート▲0.010%・平均落札レート▲0.008%)と比べ、強めの結果となった。次回以降は、ディーラーの慎重な姿勢もあって、前回対比で買入レートは低下すると思われる。

«CP現先市場»

CP現先レートは、投資家の運用ニーズが強く、引き続きマイナスから0%近辺での出会いを予想する。

**参考資料**

**短期社債月末残高（H27年5月～H29年4月）**



**5月末発行残高上位10社**

(単位：百万円)

	発行企業名	5月末残高	4月末残高
1	三井住友ファイナンス&リース	949,900	966,900
2	三菱UFJリース	826,100	848,700
3	東京センチュリー	614,200	592,500
4	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
5	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	469,380	529,300
6	三菱UFJモルガン証券	431,500	384,600
7	クレディセゾン	429,000	437,000
8	芙蓉総合リース	389,200	369,200
9	JA三井リース	380,000	370,000
10	ジャックス	376,000	355,000

参考出所 (株)証券保管振替機構

-----  
本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長（登金）第 243 号

大阪本社 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋 2 丁目 4 番 2 号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1 丁目 2 番 3 号

加入協会 日本証券業協会